

研究開発・新規事業



基本的な考え方

「くらしに豊かさと安心をお届けします」をキーワードに以下の3つの方針を掲げ、研究・開発と新規事業創出に取り組んでいます。

1. 抗菌・抗ウイルス・消臭剤事業の最大化と新たな機能材開発へのチャレンジ
2. 既存製品・固有技術発の「コト消費」事業
3. 新技術によって社会が必要とする事業を創出

当社の新規事業は、新事業・機能材料カンパニーのイノベーション推進部がけん引しています。この部門は、知的財産の管理、分析・研究開発の機能、新規事業の企画・市場開拓部門

の3つの機能を備えた運営体制のもと、スタートアップ企業との業務提携や、外部リソースを積極的に活用したオープンイノベーション、産学管連携プロジェクトへの参加を通して、社会変化と消費者ニーズを反映した新事業の創出につなげています。

新規事業創出の体制



イノベーションの推進

当社は抗菌試験所を設置し、他企業からの試験受託ができる体制を整え、他企業の研究開発の一助となりながら、抗菌・抗ウイルス・消臭剤関連の新素材・ガラスの用途開発を進め、持続可能な社会への貢献に取り組んでいます。

WEB イノベーションの推進
<https://www.ishizuka.co.jp/pb/innovation/>

WEB 研究開発項目
<https://www.ishizuka.co.jp/pb/innovation/research-development/>

サプライチェーン



基本的な考え方

当社はコンプライアンス行動規範に定める通り、あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範に反することのない、誠実かつ公正な企業活動を通じて社会から信頼される企業を目指しています。サプライチェーンにおいても「グリーン調達方針」にのっとり、製品の品質や安全性や環境面に配慮した持続可能な調達を推進しています。

原材料の調達リスク管理

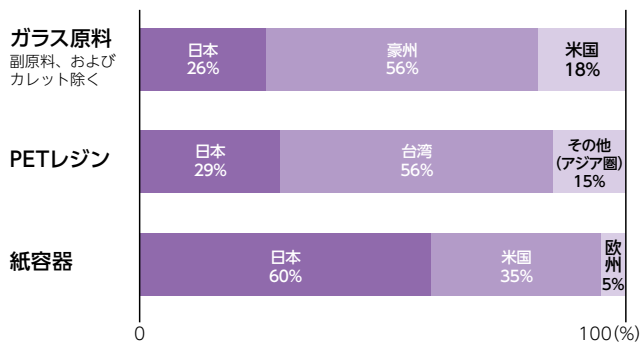
海外調達する原材料は、政治的紛争などの地政学上のリスクに対して、納期・価格・品質への影響など、原材料の調達にまつわるリスク管理に努めています。

国内調達比率としては、ガラス原料は海外産の珪砂が増したことで前年度49%から26%に減少しました。紙容器原紙は国産原紙の利用拡大を進めたことで、前年度35%から60%に増加しました。

監査の実施

2023年度は原材料調達先に対して現地監査を実施しました。「品質問題解消のための対策状況」や「工程管理の仕組みが維持、改善されているか」などの項目をチェックし、問題ないことを確認しました。

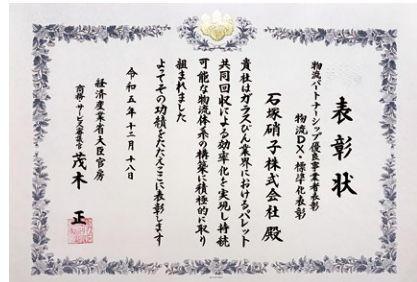
2023年度各容器素材の主原料の調達国・地域



物流の取り組み

グリーン物流パートナーシップ会議「物流DX・標準化表彰」を共同受賞

日本ガラスびん協会に加盟する当社を含むガラスびんメーカー11社が連携し、パレットの共同回収の仕組みを構築しました。積載率の向上を図ることでCO₂排出量を削減するとともに、パレットの仕分け作業に伴うドライバーの労働負荷軽減や待機時間の削減ができ、ドライバーの労働環境などの「物流2024年問題」の改善にもつながりました。また、DXの活用として、メーリングリストやパレット回収オーダーシステムを活用し、回収の進捗状況をリアルタイムで把握することで、パレットの滞留や紛失を低減しました。この取り組みが認められ、経済産業省や国土交通省などが主催する令和5年度グリーン物流パートナーシップ会議の優良事業者表彰において「物流DX・標準化表彰」を共同受賞しました。



物流パートナーシップ優良事業者表彰
物流DX・標準化表彰

品質

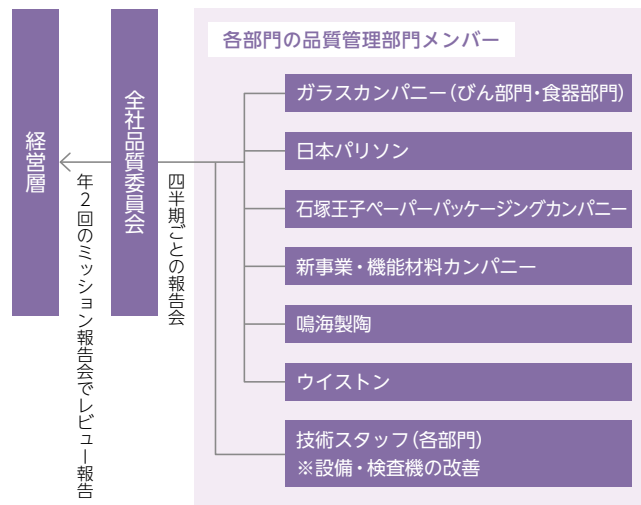


品質管理体制

当社グループは、各カンパニーおよびグループ会社ごとに管理体制を整え品質保証の徹底を図っています。事業部門およびグループ会社は毎月開催されるカンパニー社長会のなかで経営層と品質状況を共有しています。あわせて、全生産拠点は品質マネジメントシステム(ISO9001)、ガラスびん・PETボトル用プリフォーム・紙容器を製造する事業部門およびグループ会社は、食品安全マネジメントシステム(FSSC22000)を運用することで継続的な改善に努めています。これらの取り組みによって、石塚硝子グループ全体の品質を維持しています。

全社品質委員会は全社で品質課題を共有し、各事業部門の品質保証・管理体制の再整備と管理レベルの向上を図るとともに、当社グループ全体で品質情報を共有し、各事業部門の品質目標の達成に向けた支援を行うことを目的に設置しています。

全社品質委員会の体系



2023年度の取り組み

2022年度のクレーム傾向分析の結果、再発クレームが多く発生していました。再発クレームに対し、是正内容が応急処置に留まっていなかった、再発防止への管理体制強化の整備が行き届いているかの確認を行いました。再発防止の取り組みとして、2カンパニー1組となり、相互監査を実施しました。過去に発生した再発クレームをベースに是正報告書を確認し、原因の深堀りを行うことでお互いに指摘やアドバイスを受けながら不備を改善することができました。また、他カンパニーを監査することで品質に対する知見や品質意識向上の成果がありました。

品質向上の取り組み

ガラスびん・ハウスウェア

ガラスびんでは、品質トラブル件数が前年度より減少し、目標を達成することができました。ハウスウェアも品質トラブル件数は前年度より減少し、目標を達成することができました。特に製品に添付するシール管理を強化することにより、これに起因するトラブル件数を0件に改善することができました。

2024年度よりガラスびん事業とガラス食器事業が統合し、ガラスカンパニーとして新たな組織で活動を開始しました。品質部門もガラスびんと食器の品質保証部が一体となり、さらなる品質向上に取り組んでいます。

紙容器

近年、原紙の臭気に対する顧客からの問い合わせが増加傾向にあるため、グループ会社の日本パリソン(株)の運用を参考に、臭気訓練・評価者認定試験制度を導入しました。原紙に携わる作業者全員でスキル向上に取り組んでいます。